倶多楽の火山活動解説資料（平成30年７月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１、図２-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震及び微動の発生状況（図２-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図２-③）

GNSS[1)] 連続観測では、2017年７月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられていますが、表面現象や地震活動に特段の変化は認められていません。

1）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(https://www.jma-net.go.jp/sapporo/)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号　平29情使、第798号）。

次回の火山活動解説資料（平成30年８月分）は平成30年９月10日に発表する予定です。

図１　倶多楽　南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（７月27日、414m山監視カメラによる）

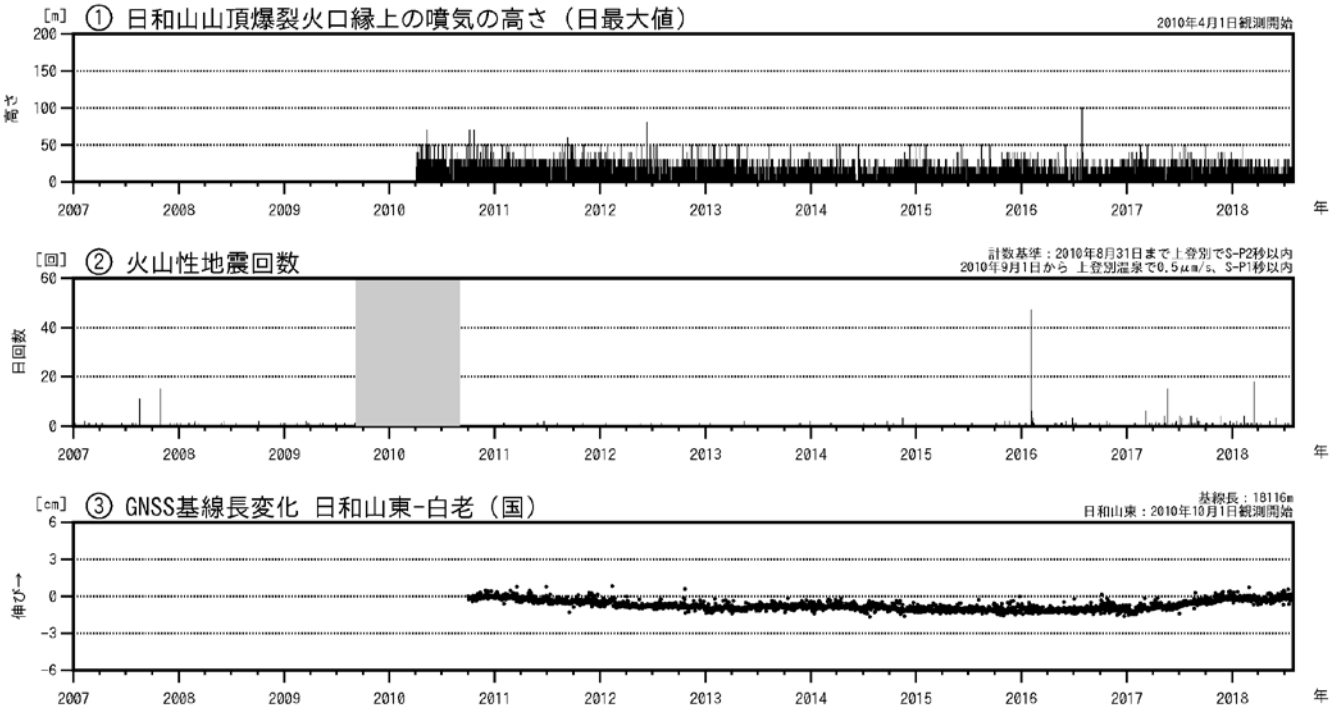
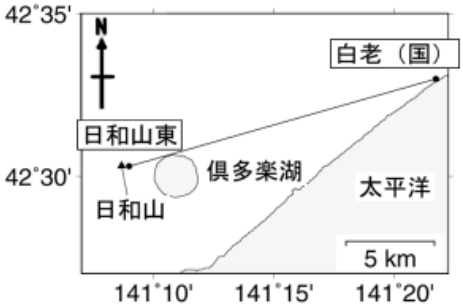


図２　倶多楽　火山活動経過図（2007年１月～2018年７月）

②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。

・③のGNSS基線ではわずかな伸びがみられていますが、表面現象や地震活動に変化は認められません。



GNSS連続観測点配置図
（国）：国土地理院

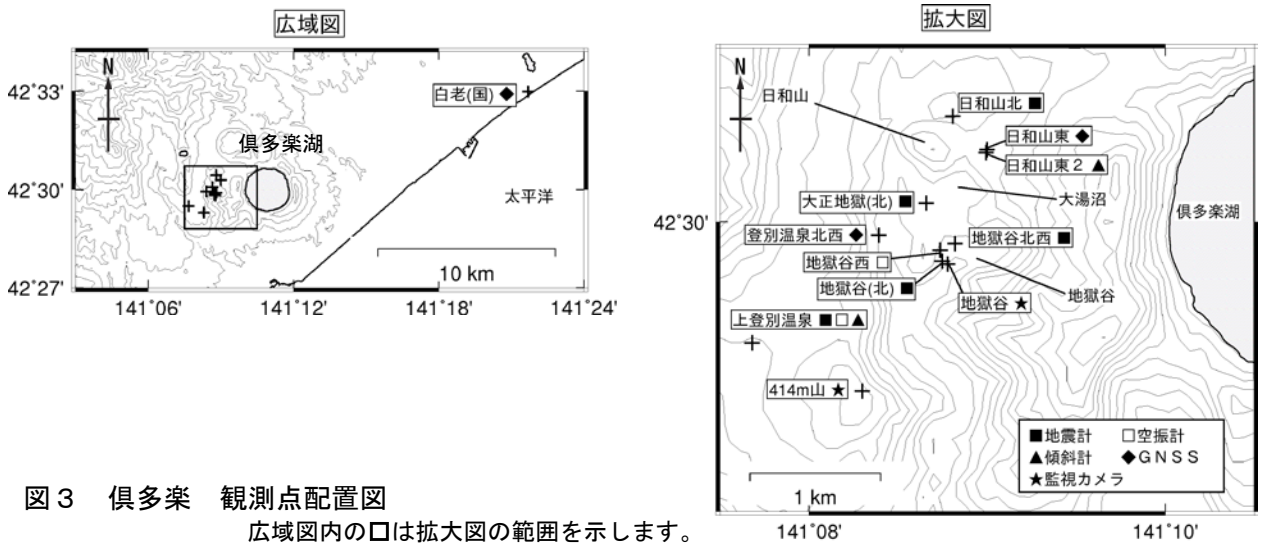


図３　倶多楽　観測点配置図

広域図内の□は拡大図の範囲を示します。
＋印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学